

令和6年度
事業報告書

令和6年 4月 1日から
令和7年 3月31日まで



公益財団法人木原記念横浜生命科学振興財団

目次

事業概況及び課題等	1
I 生命科学に関する学術振興及び知識普及啓発事業	2
1 学術奨励事業	
(1) 木原記念財団学術賞	
2 知識普及啓発事業	
(2) 木原記念こども科学賞	
3 情報発信	
II 生命科学に関する共同研究開発等の企画及び推進事業	6
1 共同研究開発事業等	
(1) 共同研究開発の創出・推進	
(2) Go-tech 事業	
(3) 大学・研究機関の研究・産学連携支援	
2 研究開発等助成事業	
(1) 横浜市トライアル助成事業	
III 生命科学の応用による産業活性化の支援事業	10
1 事業化支援	
(1) BIBLIO の運営	
(2) 横浜市トライアル助成事業	
(3) 医療現場発 研究シーズピッチ～医師と企業の出会いで拓く社会実装～	
(4) 健康医療分野の事業推進事業	
(5) 障害福祉施設における介護テクノロジー導入に向けた課題の調査分析事業	
(6) 個別支援等	
2 ネットワーク促進、活用事業（マッチング）	
(1) 横浜・神奈川バイオビジネス・ネットワークの運営	
(2) バイオベンチャーアライアンス（BVA）の運営	
(3) 末広町地区でのアカデミア、ベンチャー、企業との連携	
(4) 「Zero Carbon Yokohama」の推進	
3 出展支援・広報	
(1) BioJapan 2024 出展支援	
(2) 自主イベントの開催	
4 クラスター連携事業	
(1) クラスター連携	

IV	生命科学に関する産業集積・技術支援のための研究開発施設の設置及び管理運営	19
1	横浜バイオ産業センター（YBIC）事業	
V	理事会・評議員会・監査.....	20
1	理事会	
2	評議員会	
3	監査	
VI	事務局.....	20

事業概況及び課題等

令和6年度においては、横浜市との協約等に基づき、「健康・医療」分野を中心に定款に定める4つの事業に取り組みました。

「学術振興及び知識普及啓発」では、第33回木原記念財団学術賞の選考や第32回受賞者の記念講演会を開催しました。また、第32回木原記念こども科学賞では表彰式及び「小さい実験」を実施し、神奈川県内の小・中学生を対象に専門家によるぬりえを活用した生物学に関する講演会を開催しました。

「共同研究開発等の企画及び推進」では、神奈川県内の中小・ベンチャー企業や大学等研究機関の共同研究開発の創出・推進を支援するとともに、トライアル助成事業においては、横浜市内の企業や大学等研究機関の研究成果、臨床ニーズ等の実用化に向けた支援を行いました。

「産業活性化の支援」では、横浜市の補助事業として、ヘルスケアに関連するビジネスの事業化への支援や中小企業・スタートアップ等への支援などを横浜市と共に行いました。

また、バイオベンチャーアライアンス（BVA）などのネットワークを活かし、バイオビジネスのマッチングセミナー等を企画開催するとともに、「BioJapan」への出展支援などを行いました。

「産業集積・技術支援のための研究開発施設の設置及び管理運営」では、バイオ関連企業や研究機関を支援する賃貸型研究施設である横浜バイオ産業センター（YBIC）について、経年劣化に対応して居室空調を更新するなど、良好な研究環境を提供しました。

理事会、評議員会、監査や事務局の運営においては、事業活動の効率性を向上させるため、オンラインの活用や、テレワーク等を推進しながら、各種業務に取り組みました。

今後も生命科学の振興とその応用による産業の活性化に寄与していくほか、脱炭素やGXといった社会課題に対し、バイオを活用したイノベーションの支援など、中・長期的な視点に立って事業の改善や財政基盤の安定化に取り組み、持続可能な財団経営を目指してまいります。

I 生命科学に関する学術振興及び知識普及啓発事業

(事業費支出 6 百万円)

1 学術奨励事業【公益目的事業区分（以下「区分」）：表彰・コンクール】

(1) 木原記念財団学術賞

ア 第33回木原記念財団学術賞の選考

生命科学の分野で優れた独創的研究を行っている研究者（満 50 歳以下）を表彰するため、「第 33 回木原記念財団学術賞」を実施し、受賞者を決定しました。

学術賞の選考にあたっては、推薦募集の受付けや第 1 回選考委員会のオンラインでの開催、選考資料をデータ配信するなど選考過程の効率化を図りました。

＜受賞者＞ 鈴木 淳史 氏（国立大学法人九州大学 生体防御医学研究所
細胞機能制御学部門 器官発生再生学分野 教授）

＜受賞研究＞ 「ダイレクトリプログラミングによる細胞運命転換に関する研究」

◇募集期間：令和 6 年 6 月 1 日（土）～ 9 月 30 日（月）

◇推薦依頼先：228 か所（内訳：学会 55、研究所 22、大学 122、過去受賞者 29 名）

◇推薦数：22 件

イ 第32回木原記念財団学術賞贈呈式の実施

令和 5 年度に実施した「第 32 回木原記念財団学術賞」の贈呈式を、横浜市立大学木原生物学研究所において開催しました。贈呈式の後、受賞者であるトーマス・マックヒュー氏と木原記念室を見学し木原均博士のご研究内容やお人柄などをご紹介します。



◇開催日：令和 6 年 5 月 16 日（木）

◇会場：横浜市立大学木原生物学研究所

ウ 第32回木原記念財団学術賞記念講演会の実施及び30周年記念誌の配布

令和5年度の受賞記念として、オンライン形式にて講演会を開催しました。受賞者及び受賞者所属研究センター長である影山龍一郎博士に、「現代社会が抱える問題に立ち向かう-脳神経科学研究センターの挑戦-」と題したご講演をいただきました。また、30周年記念誌をホームページで公開すると共に、各所に配布しました。

◇開催日：令和6年8月29日（木）14:00～16:15

◇会場：オンライン

◇プログラム：

・（公財）微生物化学研究会微生物化学研究所

特任部長 長田 裕之氏

タイトル：選考委員長報告

・第32回受賞者 国立研究開発法人理化学研究所

トーマス・マックヒュー氏

タイトル：Using genetics to understanding memory

（遺伝学を利用して記憶を理解する）

・祝賀講演 国立研究開発法人理化学研究所 影山 龍一郎氏

タイトル：現代社会が抱える問題に立ち向かう-脳神経科学研究センターの挑戦-

・常務理事 鈴木 榮一郎

タイトル：木原記念学術賞のご案内

◇参加者：167名



公益財団法人木原記念横浜生命科学振興財団
**木原記念財団学術賞
記念講演会**

参加無料
オンライン

第32回受賞者 祝賀講演

遺伝学を利用して
記憶を理解する

現代社会が抱える問題に立ち向かう
—脳神経科学研究センターの挑戦—

理化学研究所
脳神経科学研究センター
チームリーダー
トーマス・マックヒュー氏

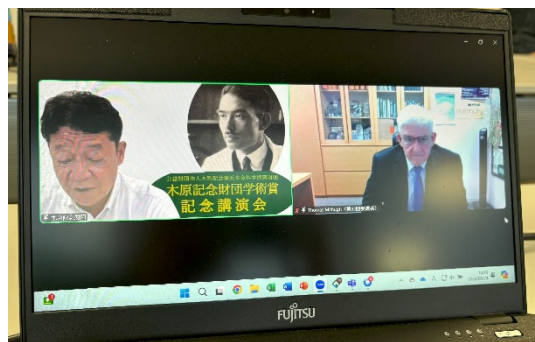
理化学研究所
脳神経科学研究センター長
影山 龍一郎氏

日時：2024年8月29日（木）14:00～16:15

注：マックヒュー氏の講演のみ英語となります。ZOOMの字幕翻訳機能をご使用ください。

お申込み：<https://x.gd/5h8Dw> (zoom登録フォーム)

お問合せ：公益財団法人木原記念横浜生命科学振興財団
学術賞担当 Tel:045-502-4810 kiharagakujuitsusho@kihara.or.jp



2 知識普及啓発事業【区分：表彰・コンクール、体験活動等】

(1) 木原記念こども科学賞

身近な動物や植物に親しむことで、次代を担うこどもたちの科学の芽を育むことを目的として「第32回木原記念こども科学賞」を実施しました。

神奈川県内の小・中学生を対象として、生きものに関する観察、調査、実験等の作品を募集した結果、188作品（25校・41個人）の応募をいただき、主に小中学校の教員で構成される選考委員会による選考を経て、25作品の入選が決定し表彰式を開催しました。昨年度に引き続き今年度も地域の企業、バイオ関連企業、研究者等からご寄附をいただき、本事業の運営（作品集の印刷、会場費等）に活用させていただきました。

表彰式は横浜市役所のアトリウムを会場とし、光あふれるフロアで受賞作品の展示も行いました。また、「小さい実験」を実施し、「ぬりえを活用した生物学講義」に一般公募の参加者も含め、神奈川県内の小・中学生および保護者37名の参加があり、ぬりえを楽しみつつ、“生きている”仕組みと不思議についての講義で、楽しく学ぶことができました。

受賞作品や講評をまとめた作品集を財団のホームページに掲載しています。

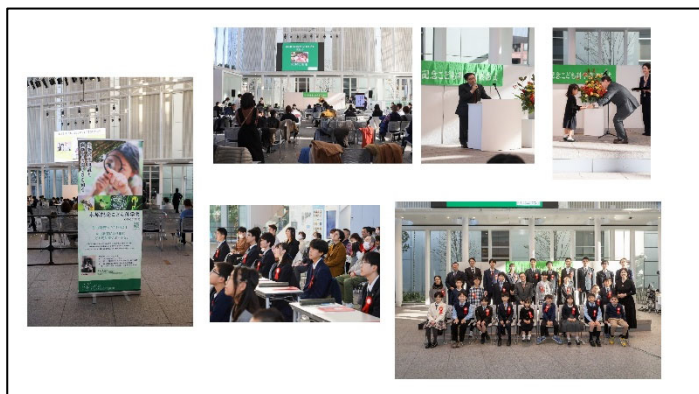
また、引き続き自由研究に励んでもらえるよう、自由研究の手引きとなる「自由研究攻略本」を製作し、参加賞として配布しました。

《募集概要》

- ◇期間：令和6年7月1日（月）～9月30日（月）
- ◇後援：〔教育委員会〕神奈川県教育委員会、川崎市教育委員会、相模原市教育委員会、横浜市教育委員会
〔研究機関〕横浜市立大学木原生物学研究所、海洋研究開発機構
〔企業〕株式会社神奈川新聞社、株式会社横浜銀行、横浜信用金庫
- ◇寄附：横浜市内企業等5社、個人8名
- ◇募集先：神奈川県内 全小・中学校
- ◇応募数：188作品（小学校低学年68、小学校高学年48、中学校72）

《選考結果》

	最優秀賞	優秀賞	努力賞	神奈川新聞社賞
小学校低学年の部	1	1	4	1
小学校高学年の部	1	1	6	1
中学校の部	1	3	4	1



《表彰式・記念講演会概要》

- ◇開催日
令和6年12月15日（日）
- ◇会場
横浜市役所 1F アトリウム
- ◇次第
表彰式
13時00分～14時15分
小さい実験講演会
14時15分～15時30分



3 情報発信【区分：その他】

財団のホームページや財団の有するネットワークを通じて、生命科学の振興に役立つ情報を発信しました。

Ⅱ 生命科学に関する共同研究開発等の企画及び推進事業

(事業費支出 26 百万円)

1 共同研究開発事業等【区分：相談・助言、技術開発・研究開発】

(1) 共同研究開発の創出・推進

神奈川県域に立地するライフサイエンス分野の企業及び大学等研究機関が連携する、社会実装が有望視される研究開発プロジェクトの創出・推進を支援しました。特に、研究助成した大学の研究テーマを企業に橋渡し、共同研究を創出しました。

(2) Go-tech事業

昨年に引き続き、中小企業のものづくり基盤技術及びサービスの高度化を通じて、我が国製造業の国際競争力の強化を図ることを目的とする補助金を活用し、中小企業が研究機関と連携することで、事業化につながる可能性の高い研究開発、試作品開発及び販路開拓への取り組みよう、財団は事業管理機関として、申請書作成、採択後の経費管理を含めた事業管理を行うことで、支援しました。

(新規)

- ・研究テーマ：骨格筋損傷萎縮に対する薬剤治療の幕を開ける「外肛門括約筋損傷による便失禁治療剤」の研究開発
- ・補助元：経済産業省関東経済産業局
- ・補助金額：10,316,479円（内、間接補助金額8,630,294円）
- ・研究機関：株式会社Elixir Pharma、国立長寿医療研究センター

当該研究は令和5年度横浜市トライアル助成金の採択者であり、世界初の骨格筋再生医薬品の研究・開発に取り組む株式会社ElixirPharmaが、SVペプチドを用いて、便失禁治療剤を開発することを目的としています。

Go-techについては、令和6年度に申請を行い、採択されました。2年の研究期間で、臨床試験を行うために必要なデータ取得をおこなうことを目標にしており、計画通りに進捗しています。

◇資金獲得支援件数：1件

(説明会)

Go-tech事業をより多くのスタートアップ、ベンチャー、中小企業に知ってもらい、活用していただくこと、事業管理機関として広く支援することを目的に、令和7年度の中小企業経営支援等対策費補助金（成長型中小企業等研究開発支援事業）説明会および個別相談を実施しました。

日時：令和7年2月6日

場所：オンライン

参加者：説明会34名、個別相談7社

(3) 大学・研究機関の研究・産学連携支援

ア 横浜市立大学の産学連携URA業務を受託し、週1日常駐して産学連携業務の支援を行いました。通年で延べ20件の研究及び産学連携の支援を行いました。成果として3件が資金獲得につながりました。

イ 横浜市立大学が推進する「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)」において、産学官民連携による大学発の事業創出イベント（クアトロヘリックスキャンプ）を実施し、産学官の共創チームを5件、創出しました。

【クアトロヘリックスキャンプ開催概要】

開催日：令和6年9月13日（金）13：00～18：00、9月14日（土）10：00～15：00

会場：神奈川大学みなとみらいキャンパス

主催：横浜市立大学COI-NEXT拠点 共催：神奈川大学、公益財団法人木原財団

後援：横浜市、神奈川県、経済産業省関東経済産業局

協賛企業：シスメックス株式会社、株式会社村田製作所、大日本印刷株式会社、

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社、

MeijiSeikaファルマ株式会社、塩野義製薬株式会社

参加者：スタートアップ企業10社、協賛企業6社、自治体3自治体、大学教員12名

参加学生12名

参加者数：9月13日開催 計68名

9月14日開催 計64名

【共創チーム】

	協賛企業	スタートアップ	チーム名	共創テーマ
1	Meiji Seikaファルマ シスメックス	FrontAct BiPSEE With Midwife	VOYAGE	心がつらい人を、誰一人取り残さない
2	村田製作所	エグゼヴィータ Lively	古都	ウェルビーイング クアトロヘリックス
3	三菱UFJリサーチ& コンサルティング	Safamii	サファミル	その人にとっての“ココロヨイ” 体験を地域と 創る
4	塩野義製薬	SHIN4NY	しおふおにー	感情で心の疲労検知・繋がるアプリ：Be Coneccted
5	大日本印刷	MentaRest	アニメンタレスト	日本の強みであるサブカルチャーを駆使して、 メンタル不調予防を楽しく日常に溶け込ませる

ウ 神奈川大学の産学連携URA業務を受託し、週1日常駐して産学連携業務の支援を行いました。通年で延べ16件の研究及び産学連携の支援を行った他、研究内容の整理・分析作業や、外部資金獲得分析等を行いました。

その他に、横浜市内にある大学研究者の競争的資金申請書の添削支援を行いました。成果として1件が資金獲得につながりました。

◇資金獲得支援件数：5件
◇プロジェクト件数：5件

2 研究開発等助成事業【区分：助成（応募型）】

（１）横浜市トライアル助成事業

中小・スタートアップ企業や大学等研究機関の研究成果、臨床ニーズ等の実用化に向け、アイデアを具体化する試作品開発やデータ検証等にかかる費用を助成しました。また、助成対象となる企業等の探索から申請書作成支援、助成金執行管理に係る支援を行いました。

【名 称】 横浜市トライアル助成金

【助成率】 10/10以内

【助成限度額】 中小企業200万円 大学・研究機関等100万円

【実施結果】 採択件数 11 件（中小企業 3 件、大学等 8 件）

採択企業・団体名	事業計画の名称
INOCO LAB JAPAN 株式会社	高感度遺伝子検出器の開発
MabGenesis 株式会社	アスペルギス症早期診断法の研究開発
横浜市立大学大学院 生命医科学研究科	遺伝性知的障害・自閉スペクトラム症に対する 治療薬スクリーニング系の開発
横浜市立大学 木原生物研究所	ウルトラファインバブルオゾン水素水による 環境再生型農業のコア技術研究
横浜市立大学大学院 生命医科学研究科	中分子ペプチドを利用した膵がん治療薬開発の構造基盤研究
株式会社アルガルバイオ	LED 照射装置導入による 微細藻類 CCUS デモプラットフォームの構築と検証
神奈川県立こども 医療センター 新生児科	新生児脳症における MRS による 発達予後予測方法の確立：多施設前方視的研究
横浜市立大学大学院 生命ナノシステム科学研究科	がん糖鎖検査の促進を目指す高温耐性人工レクチンの試作
横浜市立大学 医学部分子生物学教室	ALS 疾患モデル神経細胞の効率的な作出技術の開発
神奈川県立がんセンター 泌尿器科	アディポカインを介した新規前立腺癌去勢抵抗性 獲得メカニズムの解明
東京科学大学 生命理工学院	光合成機能制御分子 ppGpp と関連分子ツールの 工業的製法の開発

Ⅲ 生命科学の応用による産業活性化の支援事業

(事業費支出 27 百万円)

1 事業化支援【区分：相談・助言、講座・セミナー・育成、助成（応募型）】

(1) BIBLIOの運営

横浜市補助事業の一環として、横浜市内のライフサイエンス系企業・研究機関に対する以下のような支援を通じ、研究開発を推進しました。

ア YOKOHAMA BIBLIO の運営

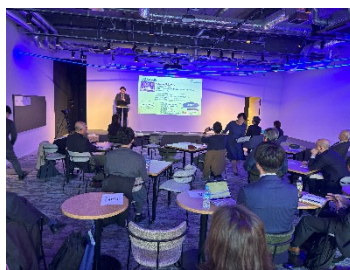
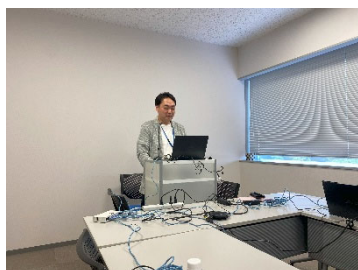
研究開発シーズの事業化支援の一環として、研究開発情報や専門知識、人的ネットワークに効率的にアクセスしてアイデア創出を促す、物理的な「支援の場」(YOKOHAMA BIBLIO)を運営しました。セミナーはオンラインで5回、ハイブリット（対面、オンライン）で3回開催し、延べ584人の参加者を集めました。

◇セミナー開催：8回

◇セミナー参加者（延べ）：584名（オンライン508名、現地参加76名）

●セミナータイトル※抜粋

- ・「令和6度横浜市トライアル助成金説明会」
- ・中小・スタートアップのための 支援機関活用ガイド：横浜・川崎編
- ・BIBLIO セミナー「共創」ジェンダード・イノベーションが社会を変える
～未来を変えるこれからのイノベーション～
- ・医療現場発 研究シーズピッチ ～医師と企業の出会いで拓く社会実装～・心の健康がビジネスを変える：メンタルウェルビーイング市場の魅力
- ・RDD 横浜/BIBLIO セミナー “Rare Disease Innovation Pitch in 日本橋
～研究がつなげる未来～”
- ・学生版 BIBLIO セミナー「研究支援の魅力とキャリア～研究者とともに未来を支える伴走者たち～」(2回開催)



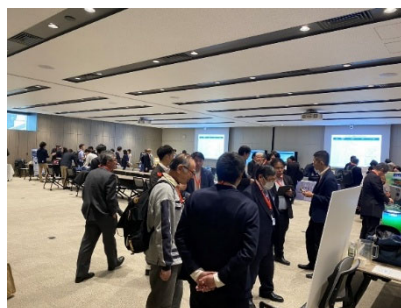
また、スタートアップの経営者を対象に経営者同士のコミュニティをつくること、朝の時間を活用して、知識の整理やインプットを行うことで、スタートアップの成長を加速させるために biblio club “朝活” を開催しました。

◇開催日時：令和6年11月29日（金）7:30-8:30 ◇開催場所：YOXO BOX
 ◇テーマ：「デット×エクイティ ベンチャー・デットについて」
 ◇参加者数：10名～研究がつなげる未来～



さらに、横浜に拠点がある大手企業と、中小・スタートアップ企業などが交流し、横浜発の新たなイノベーションの創出を目指す展示会イベントを大手企業の施設で開催しました。

◇イベント名：Yokohama Innovation Showcase
 ◇日時：令和7年2月14日（金）
 ◇会場：中外ライフサイエンスパーク横浜
 ◇概要：①大手企業のリバースピーチ
 ②ニーズにマッチする中小・スタートアップ企業による技術プレゼン
 ③出展企業のポスターや実機などを展示
 ◇コンセプト：見て（展示）、聴いて（プレゼン）、話す（ディスカッション）
 ◇出展企業：大手企業3社、中小・スタートアップ企業10社（計13社）
 ◇参加者：出展企業31名、一般73名（70社）（計104名）
 ◇マッチング件数：38件（令和7年3月末時点）
 ◇プロジェクト件数：2件（令和7年3月末時点）



(2) 横浜市トライアル助成事業（再掲）

市内企業や大学等の研究成果、臨床ニーズ等の実用化に向け、アイデアを具体化する試作品開発やデータ検証等にかかる費用を助成する「横浜市トライアル助成金」について募集・選定を行い、計11件について交付を決定しました。

令和5年度 横浜市トライアル助成金の成果の一例

- ・「2次元正弦波微細構造を有するフレキシブル導電体の開発と医用デバイスへの展開」は助成金事業の成果が論文投稿をされ、AMEDに採択されて研究を進展させています。

- ・「世界初の骨格筋治療薬を目指す、SVペプチドの研究・開発」は財団を事業管理機関として令和6年度のGo-tech事業に採択されました。

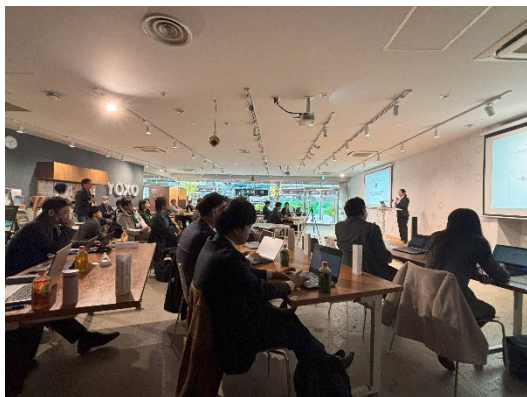
- ・「可視化I型コラーゲンによる、コラーゲン分泌制御関連製品の機能評価および新規成分スクリーニング系のプラットフォーム構築」は令和7年度中に事業化を行う予定となっています。

令和6年度採択の研究テーマについても、「高感度遺伝子検出器の開発」は事業化をしつつ、次のステップに進むべく新たな助成金の申請を行うなど、ほとんどの採択テーマで次につながる成果を得られており、市内中小企業等や大学による開発の成果につながっています。

（３） 医療現場発 研究シーズピッチ ～医師と企業の出会いで拓く社会実装～

医療機関の医師が自らの研究シーズについて民間企業関係者にピッチを行い、企業とのマッチングや社会展開のきっかけを作るためのイベントを現地とオンラインのハイブリッド形式で開催しました。現地では、ピッチ後に参加者と医師が個別に交流できる時間を設け、活発なディスカッションが行われました。イベント終了後には、参加企業より提案シートを提出いただき、企業担当者と登壇者がより深い内容を話し合うための面談を後日個別に実施しました。

- ◇イベント名：医療現場発 研究シーズピッチ
～医師と企業の出会いで拓く社会実装～
- ◇日時：令和6年12月13日（金）
- ◇会場：YOXO BOX と Zoom のハイブリッド
- ◇登壇者：計7名
 - 神奈川県立がんセンター 4名
 - 神奈川県立こども医療センター 3名
- ◇参加者：現地26名、オンライン52名（計78名）
- ◇提案数：12件
- ◇マッチング件数：6件（令和7年3月末時点）
- ◇プロジェクト件数：1件（令和7年3月末時点）



（４）健康医療分野の事業推進事業

健康医療分野で事業を進める、または新規参入を検討している企業に対し、事業計画立案から製品上市までの確実性の向上と時間短縮を目的として、事業推進に関する専門家から助言・メンタリングを得ることができるプラットフォームを構築しました。

（５）障害福祉施設における介護テクノロジー導入に向けた課題の調査分析事業

横浜市健康福祉局から上記事業を受託し、横浜市内の障害福祉施設の課題整理を行いました。施設区分（10 区分）につき各 1 施設を訪問、聞き取り調査を行い、その結果を分析しました。その後、施設区分ごと及び障害施設全体の傾向を見出したうえで、政策提案と共に資料にまとめています。本報告内容は次年度以降の横浜市障害福祉施設へのテクノロジー導入施策に活かされていくことが見込まれます。

（６）個別支援等

中小企業・スタートアップ等への個別訪問・ヒアリング等により、生命科学分野で事業を行う際の課題に応じた助言、コーディネータ等の専門家相談対応、外部機関とのマッチング、必要に応じたプロジェクト組成と伴走、助成金獲得等の個別支援を実施しました。

マッチングを行った95件中の4件とトライアル助成金の助成対象となった11件の計15件についてプロジェクト創出を支援し、大学の研究促進や産業化支援、ベンチャー企業の事業促進等の成果につなげました。

◇個別相談支援件数：90 件

◇マッチング件数：95 件（Yokohama Innovation Showcase：38 件、
医療現場発 研究シーズピッチ：6 件含む）

◇プロジェクト件数：15 件

2 ネットワーク促進、活用事業（マッチング）【区分：その他】

（１）横浜・神奈川バイオビジネス・ネットワークの運営

横浜・神奈川バイオビジネス・ネットワークを活用し、産業活性化に資する情報発信等を行いました。

（２）バイオベンチャーアライアンス（BVA）の運営

横浜・神奈川バイオビジネス・ネットワーク内の企業、全国のアカデミア、バイオ産業支援機関などの連携体であるBVAの中核機関及び事務局として、メンバー同士の交流の場（定例会）や外部講師を招いた勉強の場（勉強会）を提供するとともに、各種相談や公募情報等の提供、企業間連携のコーディネーションなど事業や研究開発の発展につながる支援を行いました。成果として15件のプロジェクト創出につながりました。

- ◇会員数（令和7年3月末）：125社・機関（対前年度比17増）
- ◇主な取組：各種相談や公的資金に関する情報提供、企業間連携のコーディネーションなど事業発展につながる支援等を実施しました。
 - ・定例会・勉強会の開催：対面開催2回
 - ・ランチタイムセミナーの開催：オンライン開催7回
 - ・マッチングカンファレンス（バイオイインターフェース）の開催：オンライン開催2回
 - ・研究会の開催：創薬研究会（4回）、産学連携ネットワーク会議（1回）、ヘルスケア研究会（1回）
- ◇プロジェクト件数：15件

（３）末広町地区でのアカデミア、ベンチャー、企業との連携

理化学研究所 菊地淳教授の横浜ブルーカーボン構想の実現に向け末広町地区まちづくり協議会メンバー（3社）と連携の可能性を検討し、内1社と連携に向けた検討を進めました。また、横浜市立大学 生命医科学研究科との企業連携を目指して、横浜市立大学池口満徳教授の「生命医科学研究科の紹介と共同研究に向けたご提案」をベースにAGCと意見交換を実施しました。また、YBIC入居企業との連携に向けて上記資料をベースに意見交換する準備に取り組みました。

（４）「Zero Carbon Yokohama」の推進

令和６年度からライフサイエンス技術を活用したGX、脱炭素領域での産業活性化に寄与する取り組みとして新たにスタートさせました。令和５年度木原学術賞受賞者の遺伝学研究所 宮城島進也教授が進めている「ゲームチェンジャーテクノロジーによる低炭素社会の実現」を推進するために「微細藻類研究会」を立ち上げ企業連携推進のための取り組みを開始しました。参加企業は株式会社双日イノベーション・テクノロジー研究所、株式会社ジャパンメディカル倶楽部、ニイガタ株式会社の３社となっており、引き続き、メンバー獲得に向け取り組みを継続しています。

また、サーキュラーエコノミーの実現を目指し YBIC 入居企業と「YBIC バイオものづくり交流会」を立ち上げ GX の取り組みを開始し、YBIC 入居者（８社）全員に参加いただき、交流を進めています。

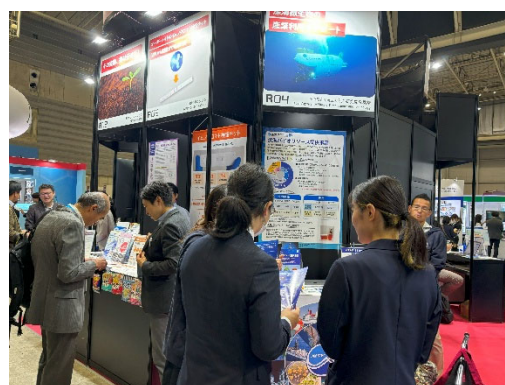
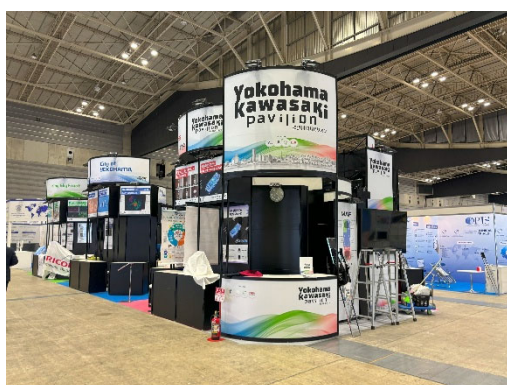
3 出展支援・広報【区分：展示会・〇〇ショー、相談・助言、講座・セミナー・育成】

(1) BioJapan 2024 出展支援

域内に立地する中小企業の出展や販路拡大等を支援するため、横浜市、川崎市と連携し、横浜市内企業等で構成するパビリオンを設け、研究開発用ツールや受託サービスに関する技術の情報発信や商談等を支援しました。

第26回目の開催となった同展示会は、過去最大規模となり、パビリオンへの集客向上や販促資料を広く配布するなど、工夫を凝らしたパビリオン運営を行い、例年と同程度数の企業の参加を支援しました。

- ◇開催日時：令和6年10月9日（水）～11日（金）
- ◇会場：パシフィコ横浜
- ◇来場者数：18,003名（主催者発表）
- ◇パビリオン出展：24社・機関（うち横浜市内企業・団体13）



（２）自主イベントの開催

学生版 BIBLIO セミナー「研究支援の魅力とキャリア～研究者とともに未来を支える伴走者たち～」(2回開催)

研究者を支援し研究をマネジメントする、リサーチ・アドミニストレーターの重要性が高まっている現状を受け、研究支援業務の魅力を発信するセミナーをオンラインで実施しました。財団初の試みとして、全国の大学生を主な対象として情報発信を行いました。

4 クラスタ連携事業【区分：その他】

ライフサイエンス資源の発掘や育成に地域で取り組む公益財団法人等の支援機関に声かけを行い、各地域の支援内容・成功事例等の情報共有や、地域を超えた共同研究・事業連携等の創出に向けた意見交換などを行う場を設けました。

◇開催：2回

◇日時：第1回 令和6年6月19日（水）、第2回 令和7年1月22日（水）

◇場所：第1、2回とも オンライン

◇参加団体（15団体、50音順）：

アグリオープンイノベーション機構、沖縄科学技術振興センター、
かずさDNA研究所、神奈川産業振興センター、川崎市産業振興財団、
木原記念横浜生命科学振興財団、久留米リサーチ・パーク、
東北ライフサイエンス・インスツルメンツ・クラスター、
とっとりバイオフロンティア、名古屋産業科学研究所 中部TLO、
ふじのくに医療城下町推進機構 ファルマバレーセンター、
北海道科学技術総合振興センター ノーステック財団、
マリンオープンイノベーション機構、やまなし産業支援機構、
横浜企業経営支援財団

計 15 機関

IV 生命科学に関する産業集積・技術支援のための研究開発施設の設置及び管理運営

1 横浜バイオ産業センター（YBIC）事業 【区分：施設の貸与】

（事業費支出 111百万円）

バイオ産業集積の拠点として、横浜バイオ産業センター（YBIC）の貸室貸与により、バイオ関連企業や研究機関の研究開発を支援しました。令和6年度末現在で入居率100%を維持しています。

運営にあたっては、防災訓練等を実施し、火災時の全館避難の訓練を行うなど良好な研究環境維持に努めました。

YBICは建設から10年以上が経過しているため、経年劣化に対応する修繕改修等を計画的に実施しました。

- ◇安全管理協議会： 令和6年10月29日（火）開催
- ◇防災訓練： 令和6年11月12日（火）実施
- ◇主な設備補修： 駐車場植栽部分の灌水装置取り換え工事、受水槽圧力タンク交換工事、水道メーター交換工事、消防設備更新工事、居室空調更新工事



YBIC 外観

V 理事会・評議員会・監査

1 理事会

理事会は、Web および決議の省略により開催しました。

- (1) 第1回理事会 令和5年度事業報告他 (令和6年6月11日 Web開催)
- (2) 第2回理事会 評議員会の開催 (決議の省略 令和6年10月7日 Web開催)
- (3) 第3回理事会 代表理事の選任 (令和6年10月25日 Web開催)
- (4) 第4回理事会 学術賞選考委員の選任 (決議の省略 令和6年11月1日 提案
13日決議)
- (5) 第5回理事会 令和7年度予算他 (令和7年3月19日 Web開催)
- (6) 第6回理事会 重要な使用人の選任 (決議の省略 令和7年3月27日 Web開催)

2 評議員会

評議員会はWeb および決議の省略により開催しました。

- (1) 第1回評議員会 令和5年度決算報告他 (令和6年6月26日 Web開催)
- (2) 第2回評議員会 理事の選任 (決議の省略 令和6年10月8日提案
17日決議)

3 監査

令和5年度決算について、令和6年5月24日、5月28日、5月30日に、監事により往査が実施され、令和6年6月11日の理事会で、事業報告書並びに財務諸表は適正であると認めること、理事の職務執行に関する不正行為又は法令若しくは定款に違反する重大な過失がないと認める旨、監査報告がありました。

VI 事務局

原則、週1回在宅勤務を実施するとともに、職員各々のライフワークバランスの推進に努めました。

さらに、全職員を対象とした情報セキュリティ研修を実施したほか、会計経理研修の受講の推進など、人材育成に取り組みました。